

電子複写不可



自至

昭和十九年一月  
昭和十九年十二月

明治  
34  
年  
12  
月  
24  
日

No. 140

内地、台湾、朝鮮各軍  
第三十二軍、第三十三軍

癸電綴

附  
14D  
52D

は  
80  
2140

2040  
75

中央  
戦指導  
要當  
86

9170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

6月

目次

電報  
次長宛  
號外

二	二	二
六	六	六
〇	一	一
八	六	五
三	一	五
五	五	〇
點	受	署

陸軍航空保安部那覇出張所長

三浦編隊へ天候恢復ノ見込ミナキニ行出延期ス

(終)

昭和一八六二六

目録用

機密至急作戦緊急

昭和一九、六、二七

電報

六二七 一六四〇 發  
一六〇五 著  
六二七 一六四〇 受付  
一七四〇 提出

次長宛

球部隊參謀長

球參電第五八四號

參電第三三九號（電註、作戰連絡ノ件）返

概要

一兵力配備腹案

(1) 沖繩本島ニ第九師團、獨立混成第十五聯隊一大隊、戰車一聯隊、

十五榴一聯隊（一大隊缺）、速射砲二大隊、電信一中隊

(2) 先島守備隊

獨立混成第十五聯隊（一大隊缺）、十五榴一大隊



二大東島防備ノ為軍ノ現況ニ鑑ミ中央ノ優先的ニ  
 速カニ増給スベキ具體的措置左記ノ如シ  
 (1) 高射砲一中隊  
 (2) 爆藥ニ〇〇〇(築城及戰鬥用)  
 (3) 本五日大東島現察ニ向フ

(終)

急電

電報

昭和一九、七、六  
 球部隊參謀長  
 發 1400  
 受付 1410 提出

通電先 次長、防總、西部軍

球參電第六八五號

- 一、參電第六三〇號(電註)獨立混成第十五聯隊ノ行先ニ關スル件ニ依ル獨立混成第十五聯隊ハ獨立混成第四十四旅團長ノ指揮下ニ入レ沖繩本島北部ヲ第九師團ヲシテ同島南部ヲ防衛セシムルコトトセリ
- 二、步兵第三十六聯隊ノ件諒承ス。機帆船ノ到着ヲ待チ逐次大東島ニ派遣セントス。之ヲ輸送ニハ相當ノ時日ヲ要スル見込ナリ
- 三、從ツテ第二十八師團主力ハ宮古ニ獨立混成第十八聯隊ハ石垣ト豫定シアリ
- 四、兵力ノ増強ニ伴ヒ軍需品就中糧秣彈藥燃料ノ大量集積ニ就テハ特ニ配慮願ヒ度

(終)



但シ其ノ揚陸ニハ長時間ヲ要スベシ

第二十八師團第一梯團（三五五）、BA一大隊Pへ同師團參謀長

ノ言ニ依レバ七月五日、六日頃釜山ニ集結完了スベシトノコト

ルヲ以テ宮古島到着ハ七月二十日前後ト豫期セラル

依ツテ軍トシテハ西軍參電第五七七號ノ如ク右部隊ハ海軍艦艇ニ

依リ輸送セラルルカ寧ロ一部ニテモ新田原ヨリ宮古島ニ空輸方

望ス

（終）

日誌用

電報 七五 昭和一九 七  
一六〇 發 六一六 五  
一六四 着 七八〇 五  
提出

次長宛 球部隊參謀長

球參電第六七九號（電註一部未着ナルモ配布ス  
尚宛名不明ニテ通信所配達遲延ス）

長少將ヨリ

四日沖繩本島、現地偵察ヲ終リ

必勝戰備、布陣並ニ戰法ノ研究ヲ

完了ス

一沖繩本島防備、為兵力三箇師團

ヲ必要トス

二積極的ニ敵ヲ海中ニ覆滅スル為許

シ得ベキ多クノ魚雷艇配屬セラレ度

三陣地構築並に戰鬥ノ爲爆藥四〇〇砵  
 七「セメント」三萬砵ヲ要ス  
 (電註以下一部未着)

日誌  
 秘至急親展

電報 砲隊 謀長  
 球參電第 六之八 號  
 七六三三發 和一至七  
 八七四〇長 提付八  
 長少將 可リ  
 昨五曰 及本日 大東島ノ現地ヲ視察シ南北大東島  
 堅守ノ 配備並ニ 戰法ニ關スル 研究ヲ終了シ支隊  
 長ニ進達セシメタリ  
 一敵ニシテ 南北大東島ヲ奪取セバ 一箇月ニ  
 於テ北大東島ニ約一〇機 南大東島ニテモ約  
 三〇機ヲ使用シ得ベキ 飛行根據地ヲ設定シ  
 得ルモノト判断セララル  
 二大東島支隊目下ノ兵力配置左ノ如シ



北 大東島歩兵一中隊 野砲一門 機關銃一銃  
 南 大東島大隊長ノ指揮マール歩兵二中隊 野砲  
 一門 七式歩兵砲二門 野砲一門 機關銃一銃  
 沖 大東島歩兵一中隊 野砲一門 機關銃一銃  
 石ノ如キ現下ノ情勢ニ鑑ミ戰備薄弱ニシテ累  
 卵ノ危キニ似タリ前電意見ノ如ク速カニ海軍  
 艦艇ヲ以テ三箇大隊ヲ急派スルコト同島ノ  
 價値大ナルニ鑑ミ極メテ所要ナリ  
 三 現地地形ノ特質上輕迫四八門重擲彈筒一箇中  
 隊ニ一五九計ニ一六八迫擊砲及重擲彈筒ノ彈  
 藥共ニ五會戰分ノ發煙筒一萬箇(四箇大隊三  
 時間ノ戰鬪ヲ爲シ得ツヨ裝備スル如クセバ必  
 勝戰法ノ適用ト相俟ツテ同島ノ確保ニ確信アリ

四 水ハ天水ヲ利用シアリテ部隊増強ニ伴ヒ補強  
 ノ施設ヲ行ヘバ地ノ水ノ利用ト相俟ツテ顧慮  
 ヲ要セズ  
 五 糧秣及塩ハ中央ノ要ホスル確保期間ヲ考慮シ  
 凡百ノ機會ヲ擲ミ追送セララルルニ必要ナリ  
 六 海軍ヲ督促シ海軍ガ企圖シアル同島守備兵器  
 一ニ握加農砲二門一ニ機高尙砲四門一ニ機付  
 高射機關銃二機及電波探信機)ヲ速カニ備付  
 ノル如ク至急遠置セラレ度  
 特ニ電波探信機ハ沖繩諸島防空上焦眉ノ急ナ  
 リト思考セラル

(終)

覽報  
次長宛

昭和一九二九年  
七月八日  
球部隊參謀長

球參覽第六九六號

第三十二軍ヲ速カニ大本營直轄トセラルル

ヲ可トス

理由左記ノ如シ

- 一 要地防空ヲ主トスル防衛總司令部系統ト敵ノ主攻ヲ豫期シ地上決戦ヲ企圖スル軍トハ其ノ性格ニ於テ著シク相違アリ
- 二 軍戦力ノ殆ド大部ハ中央ヨリ直接維持培養強化セラレアル所ナリ
- 三 防衛總司令部西部軍ヲ經由スルハ徒ラニ指

揮後方通信ヲ鈍重紛亂徒勞ニ陷ラシム現下  
 急迫セル狀況ニ適合セズ

(終)

極秘至急視展電

昭和一九三七年七月一〇日  
 七九、七四、四九、二九、二三、二〇、一六  
 昭 和 一九三七年七月一〇日

報

次 長 亮

球部隊參謀長

球參電第七四三號

日誌用

長少將ヨリ

一七日及八日宮古島ヲ偵察シ同島ノ配備並ニ戦法ニ關シ  
 第四十五旅團長及先遣セラレタル第三十八師團參謀長ニ了解セ  
 シメタリ

ニ宮古島ノ地形ハ戰車ヲ伴フ數師團ヲ以テ各方面ヨリ上陸可能  
 ニシテ攻撃ニ易ク守ルニ難ク米軍ニシテ同島ヲ占領セザカ一箇月  
 ニシテ一五〇機周圍ノ小島ニ數百機計二〇〇機ハ(密註)  
 電文ニハ二〇〇トアルモ二〇〇ノ粗齟ナラン一大根據地ヲ設定シ得ルモト  
 判断セラレル要地ニシテ我が本土ト南方地域トヲ遮断シテ本土ノ航

空燃料涸渴所期スル目的ヲ以テ南西諸島攻略ノ為米軍ノ  
指向スベキ攻撃重點ト判断セラル

三宮古島確保ノ為三箇師團ト一箇旅團又伊良部島三箇  
聯隊ノ守備兵力ハ絶対必要ナリ 之ヲ整備トシテ近撃砲  
ヲ要スル外爆薬少クモセロ砲及發煙劑ヲ成ルベク多ク必要  
トス

### 四宮古島ノ我が飛行場

海軍飛行場ハ使用可能ニシテ陸軍創設中ノ西飛行場ハ七月  
平日頃完成ノ豫定ニシテ一時中止ヲ命トセラレアリ  
中飛行場ハ九〇%整地シマリ

五宮古島守備上水ノ問題ハ最モ重要ニシテ作井隊一〇  
ヲ急派シ且セメントヲ増送コトセラス  
六糧秣ハ作戰ニ即應スル如ク追送ノ要アリ

(終)

昭和一九四三年三月

電報

隊長宛

球彗第一〇二六號

大陸指第二〇八六・二〇八七號受領ス

陸軍部陸軍部長

陸軍部陸軍部長  
陸軍部陸軍部長  
陸軍部陸軍部長

皇軍

8/14



第百二十九野戰飛行場設定隊  
 球次電  
 参動長  
 野電第  
 戰飛二  
 行場八一  
 設一號  
 隊  
 ハ再連セラルルヤ承リ度  
 (終)

球八  
 部三  
 隊著發  
 参四和  
 謀三三九  
 長提受八  
 出件四